

活動報告：ミュージックチャイルド

1 「ミュージックチャイルド」について

広島文化学園大学・短期大学子ども・子育て支援研究センターの一環として行われている音楽療法活動「ミュージックチャイルド」では、特別な支援を要する幼児、小学生を対象とした音楽療法を、非常勤講師及び実習助手の2名で行っている。23年度からは、「音楽療法実習Ⅰ」の実習先として、音楽学科2年生「音楽療法実習Ⅰ」履修学生が非常勤講師の行う音楽療法セッションを見学している。さらに、24年度は音楽学科3年次の科目「音楽療法実習Ⅲ」の実習現場として履修生11名が現場実習を行い、学外実習施設の一つとして本格的な機能をスタートさせた。

「ミュージックチャイルド」の目的は、音楽のもつ生理的・心理的・社会的作用を用いて、生活の質の向上などを目的とした音楽活動を意図的、計画的に行うことで、子どもの発達を支援するものである。「ミュージックチャイルド」では対象児の行動の変容や発達の促進を引き起こす手段として音楽を仕様するという共に、対象児の発する音楽表現やその他の表現を受け取り、より望ましい表現や行動に向けて促す音楽活動を行っている。

2 24年度の実践報告

「ミュージックチャイルド」で行う音楽療法活動は平成22年度と同様、インテーク面接をはじめとする、アセスメント、目標設定、実施計画の作成、セッション、保護者とのカンファレンスの流れで実施された。この活動では、重信真由美非常勤講師が主な担当者となり、実習助手1名と共に6名の児童と関わっている。

23年度より音楽学科2年次「音楽療法実習Ⅰ」の見学施設としての機能も担っており、24年度は8名の履修生が見学実習を行った。重信真由美非常勤講師の担当する音楽療法セッションを、隣室にてマジックミラー越しに観察、記録することで、3年次に行う学外実習に向けての基礎知識を習得させることを目的として実施した。

24年度、新たに開始された取り組みとして、音楽学科3年次の「音楽療法実習Ⅲ」がある。音楽学科3年生11名の履修学生は、2名又は3名が1グループとなり担当する児童への音楽療法セッ

ションを実施した。学生達は、担当教員の指導のもと、担当する児童の状態を把握するためのアセスメントを実施し、音楽療法セッションの目標を設定した。設定された目標に沿った活動計画の作成後、実際に児童と直接出会い音楽療法活動を実施した。活動終了後には、保護者への簡単な説明と情報交換の時間を設けた。「ミュージックチャイルド」での活動は実習助手によってビデオ録画されており、翌週の「音楽療法実習Ⅲ」の授業時間での指導と振り返りに役立たせた。なお、録画された活動の様子は、プライバシー保護の観点から、指導終了後、教員により消去されている。

24年度の活動状況については、前期7回、後期7回の合計14回の活動が実施された。月別の実施回数は、前期：4月1回、5月2回、6月2回、7月2回、後期：10月2回、11月2回、12月2回、1月1回である。参加児童の年齢、性別、障害は以下の通りである。8歳児3名、12歳児1名、13歳児1名、14歳児1名の計6名のうち4名が女児、2名が男児であった。それぞれの児童が抱える障害は、自閉症、てんかん、重度知的発達遅滞、広汎性発達障害、学習障害、知的障害である。参加児童の全員が前年度からの継続である。

3 保護者の声

保護者からのアンケートからは、学生との関わりや音楽療法活動の中で見られる児童の好ましい変化を感じさせる回答が多かった。3年生になり、授業で学んだ理論と技法を実践する初めての学外実習となる「ミュージックチャイルド」での学生達の取り組みを暖かく見守り、応援してくださる保護者の声は学生達の励みとなり成長に繋がっている。しかし、「ミュージックチャイルド」の活動が「音楽療法実習Ⅲ」の授業の一部であることから生じる問題点も明らかになっている。

(保護者へのアンケート回答・23年12月22日実施)

・一年間お世話になりありがとうございました。

いろいろな楽器、先生方、学生さんとふれあい、指導していただくことで本人の自信や力になっていると感じています。

学校の授業での音楽にも苦手意識なくとりくめています。経験の積み重ねの成果だとうれしく思っています。

・マジックミラー越しに子どもたちの様子を見るのは、親としてとても貴重な時間となっています。

す。学生さん達の指導は工夫がありとても楽しく過ごせていたように思います。なにより、すぐに仲よくなったことがとてもうれしく思いました。ありがとうございました。

- ・学生さん達の実習とは思えないほどいつも本格的な取り組みで楽しく活動できました。先生と学生さん達の真摯な取り組みをいつも感じてとてもうれしく思っています。特に、若い学生さん達の取り組みには自分たちも参考になることが多くあり、いつも勉強させていただいています。学校の音楽の授業をはじめとして、よい影響（積極的なようです）が現れているようで、『あゆみ』にもコメントがあり嬉しかったです。ミュージックチャイルドにはとても満足しています。今後もお互いに実りあるものにしていくための協力はしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
- ・初対面の学生の方と、初めは互いにぎこちなさも感じましたが回を重ねるごとに（学生さんが）成長される姿が頼もしく感じました。毎回楽しみにしております。（本人も）学生の方がすぐに好きになっていました。
- ・なかなか指示が通らなかったり、集中力が続かないなど対応が難しかったと思いますがいつも優しく、できたことをほめてくださったのでやる気が出たように思います。できないことも多いのですが、いろいろ工夫して下さり、「こんなこともできるんだ！」「わかってるんだ！」と新たな発見もできました。
- ・いつも、まったり、ぐったりしている子どもですが、それでも、少しずつ成長しているようで、先日のピアノを積極的に触っている姿には感動しました。学校の音楽でも、太鼓をみんなとリズムを合わせてたたけるようになって、先生から拍手していただいたそうです。
- ・今年度も楽しく参加させていただきました。体調が不安定なことも多かったですが、大好きな音楽を支えに、しんどくても頑張りたい、やりたいと思う気持ちみがみられた1年だったように思います。これからも音楽は一生の支えとなっていくと思います。
- ・日にちがあくと雰囲気慣れるまで時間がかかる子なので、時間が短くてもいいので（長期休み中も）先生や教室とふれあえれば助かります。
- ・いろんな方に接し、理解者を広げるということを考えると、（本人にとっても）前期と後期と担当者が

変わるのは、実習ということを思うと当然ですが、せっかく知ってもらってこれからますますというときに交代になってしまいますのは残念な気がします。

4 指導者の立場より(非常勤講師 重信真由美)

学生たちにとっては、実際に子どもたちと出会い、向き合う活動を通して、障害や発達の実態を目の当たりにしながら、いかに寄り添い、関わっていくか悩み、考え、多くのこと学ぶ機会となったと思う。また、子どもたちから学ぶだけでなく、保護者の方がたから直接あるいは指導者へのメールで寄せられた感想や活動に対する意見、感謝の言葉は、同じ内容でも指導者以上に心や頭に響くものがあり、学生たちへの大きな励ましや学びにつながったと感じている。

初めての实習はもちろん計画通りには活動が展開せず、四苦八苦の場面も見られたが、その場こそ、最大限自分をさらけ出して成長するための機会であるので、指導者としては子どもの安全と楽しさの確保のための援助として最低限の手出しに留めた。回を重ねるにつれ、子どもたちとの関係も深まり、子どもたちの笑顔に学生たちも励まされ、活動への意欲も学びへの意欲も高まっていったように思う。

24年度の活動については、学生の実習機関として初めての年であり、参加児童や保護者への説明及び、実習学生との時間調整を前半行い、実習がスムーズに進むよう努めた。実際、体調の変化が激しく、学校行事などの多い児童の予定と実習日程の確保については、困難な部分が多いのが事実である。今後も、余裕のあるスケジュール調整を行いながら、学生の音楽療法実践の場としてしっかりと取り組みたい。

5 改善点と将来構想

24年度は「ミュージックチャイルド」の活動に学生達が深く関わる初年度であり、様々な問題点と今後、改善すべき点が明確になった年であった。以前から課題としていた実習日の調整については、大学行事による施設使用が不可能であることも多く、困難を極めた。また、冬季には児童もとより実習学生の体調不良により授業期間終了後まで実習を行う結果となった。

児童との療法的関係性の維持を考えれば、夏期・冬季休業中も継続的な関わりを持つことが望ましいと言える。しかし、授業の一環として活動を行う限りは、長期間の休業は致し方ないと思われる。

（文責：学芸学部 音楽学科 狩谷 美穂）